

# 伊藤 ふみや

2026.02  
VOL.02



一般質問前の議場にて



並木幼稚園跡地（活用を検討中）



ごきげんファーム収穫祭にて小村議員と



米沢市オープン型最終処分場



並木祭りクラウドファンディング



つくばマラソン完走

市議会議員として2回目の活動報告をお届けします。前回の活動報告を配布したところ、たくさんの方からご連絡をいただきました。ありがとうございます。私自身、福祉や農業を中心に活動してきましたが、力になれることがあれば取り組みたいと思っています。皆さんとの関わりの中で、自分自身の見聞を広め、経験を積んでいきたいと考えています。

並木幼稚園跡地の活用について、数ヶ月前から話し合いを進めてきました。長年あのままの状態が続いていることは本当にもったいないと感じていましたが、多くの方の働きかけにより、やっと来年度予算で解体設計費が計上される方向となりました。

今、とても大事な時期を迎えています。解体後にどのような施設にしていけるかはまだ決まっておらず、地域の声を届けることが重要です。このタイミングを逃さず、良い形で進めていくためにも、皆さんの力を貸してください。詳しい状況はノートに記事としてまとめましたので、ぜひご覧ください

「こんな場所になったらいいな」というご意見や、ご協力いただける方は、お気軽にご連絡ください。ご連絡いただければ、進捗をメールでお知らせいたします。

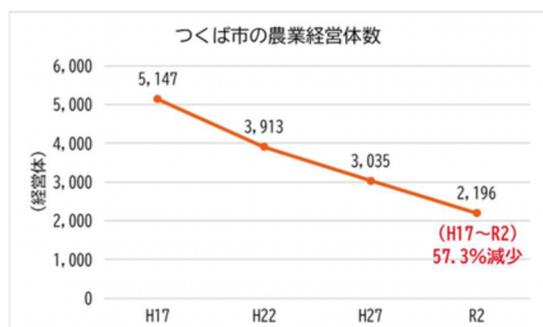
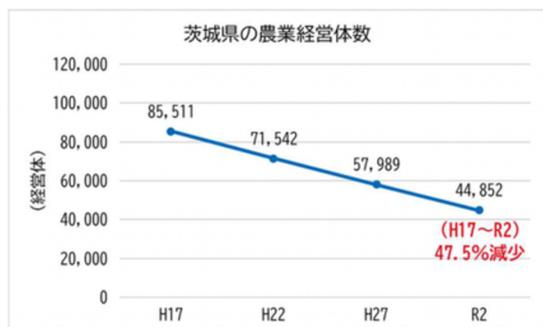
【note記事】  
並木幼稚園跡地について



【お問い合わせ】  
support@itofumiya.com



## 一般質問で農業について質問・提案しました



出典：農林水産省「農林業センサス（H17~R2）」

一般質問の映像が  
ご覧いただけます



今回の12月議会では、農業の持続可能性向上と学校給食を通じた地産地消の推進について質問・提案しました。

つくば市の農業経営体は15年間で57.3%減少し、2951経営体がなくなっています。認定新規就農者は年間2~5名程度で、経営開始5年目の農業所得の平均は約40万円と、農業だけで生計を立てることが非常に難しい状況です。

そこで、つくば市として地元農家さんの野菜を買い支える方法として学校給食に着目しました。学校給食での地産地消推進は、子どもたちが地域の食への理解を深める食育の観点からも重要です。現在の地産地消率は金額ベースで約33%ですが、令和11年度開始予定の給食レストランにより60%まで高める目標があります。これが実現すれば、子どもたちにとっても農家さんにとっても良い形になると考え、2つの提案をしました。

### 提案1 契約栽培の導入

事前に「この野菜をこの量・この価格で買います」と約束して栽培してもらう方法です。農家さんは売り先と価格が決まった状態で作付けでき、経営の見通しが立ちます。学校給食にとっても計画的に地場産物を確保できます。教育局からは「導入への調査・研究を進める」との前向きな答弁をいただきました。

### 提案2 地産地消推進のための別予算の確保

つくば市産や有機のものを積極的に使うと食材コストが上がります。給食の食材費には上限があるため、地産地消推進のための費用を別予算として確保することを提案しました。そうすることで契約栽培も進めやすくなり、農家さんにとって良い販路として継続できる仕組みになると考えています。

地産地消の推進を通じて、つくば市の農業の未来を支えていけるよう取り組んでまいります。

## 委員会

福祉保健委員会の副委員長と最終処分場に関する調査特別委員会の委員長を務めています

### 常任委員会

### 福祉保健委員会



副委員長として、10月28日につくば国際白梅保育園で保育協会との懇談会を実施しました。

最も印象的だったのは、発達が気になる子ども（グレーゾーン）への支援体制についてです。

各クラスに平均3名程度のグレーゾーンの子どもがおり、保育園では何とか対応できても、小学校では困難が顕在化することが多いとのことでした。保護者が療育の必要性を受け入れられず、就学前になって慌てるケースが後を絶たないとのことでした。また、物価高騰による給食費・光熱費の補助継続、非常勤保育士への処遇改善、行政報告書の簡素化などの要望がありました。委員会として、これらの課題に真摯に取り組んでまいります。

### 特別委員会

### 最終処分場に関する調査特別委員会

委員長として、10月・11月に4カ所の施設を視察しました。土浦市と米沢市のオープン型処分場、那須地区のクローズド型（循環型）処分場、そして鹿島では焼却灰を完全にリサイクルする熔融スラグ化施設を見学しました。

それぞれの方式にメリット・デメリットがあり、建設や運営にかかるコストも異なります。また、処分場には強固な地盤や放流先の確保など、立地条件が重要であることもわかりました。つくば市は現在、最終処分場を持たず民間施設に委託していますが、今回の視察を通じて、今後どのような方向性を目指すべきか検討するための重要な知見を得ることができました。

引き続き執行部と話し合いを重ね、委員長として提出意見をまとめていきたいと考えています。

地域の活動にも  
取り組んでいます

## 並木祭り実行委員として初参加

初めて並木祭りの実行委員として参加させていただきました。本当にたくさんの方々がお祭りを支えていることを知りました。初めての挑戦としてクラウドファンディングを実施し、目標には届きませんでした。多くの方からご寄付をいただきました。ありがとうございました。来年度以降も実行委員を募集していますので、関心のある方はお気軽にお問い合わせください。ぜひ一緒に地域のお祭りを盛り上げていきましょう。

## つくばマラソン完走

新コースとなったつくばマラソンに参加しました。制限時間6時間のところ、5時間58分38秒でゴール。残り1分22秒というギリギリでしたが、制限時間内に完走できたことは本当に嬉しかったです。たくさんの方に応援いただき、つくばの魅力を改めて感じる機会になりました。

## 大角豆地区のサギ問題

大角豆地区でサギ被害についてご相談をいただき、市の担当課と打ち合わせを行いました。担当課も状況を認識しており、一部の木を伐採したり、サギが定住しないよう音を出す対策を進めてくれています。

## 障害のある方の余暇支援

障害のある方の余暇支援サービスを増やすための準備を、市と連携しながら進めています。来年度、良い形で実現できるよう取り組んでいますので、楽しみにしててください。

## 伊藤ふみやの活動を応援してくださる方を募集しています！

- ・公式LINEで政治活動の情報を配信します
- ・活動報告会などのイベントを開催予定です
- ・ポスティングに協力してくださる方も募集しています



応募は  
こちら

## 伊藤 ふみや PROFILE

1988年5月31日生まれ。筑波大学理工学群化学類に進学。議員インターンシップを通じて、現つくば市長五十嵐立青のもとで活動し、農業と福祉の問題に取り組む。大学卒業後、五十嵐とともにNPO法人つくばアグリチャレンジ（現NPO法人ユアフィールドつくば）を設立し、ごきげんファームをスタート。現在は4カ所のごきげんファームに加えて、障害のある人たちのグループホームを展開。世界の傑出した10人の若者として国際青年会議所のTOYP（Ten Outstanding Young Persons）を受賞。社会福祉士、精神保健福祉士、公認心理師、保育士、中小企業診断士の資格を持つ。スクールソーシャルワーカーとして活動経験があり、現在は保護司として活動している。つくば市並木在住。2024年つくば市議会議員選挙で初当選。



SNSでも  
情報発信中！



note

